

学校法人 神戸山手学園
平成27年度 事業報告書

平成28年5月

目 次

I. はじめに	
1. 平成27年度の学生・生徒確保対策及び平成28年度入学者の状況	1
2. 平成27年度就職・進学支援対策と卒業・進学の状況	2
II. 学校法人の概要	
1. 法人の目的	3
2. 設置する学校	3
3. 学生数	3
4. 理事及び監事	4
5. 教職員数	4
III. 事業の概要	
■神戸山手大学	
総括	8
1. 教育内容に関する事業	8
2. 教育の実施体制に関する事業	10
3. 学生の募集に関する事業	11
4. 学生の支援に関する事業	12
5. 研究に関する事業	14
6. 社会的活動・国際交流に関する事業	16
7. 管理運営に関する事業	18
8. 財務に関する事業	18
9. 自己点検・評価に関する事業	18
■神戸山手短期大学	
総括	20
1. 教育内容に関する事業	20
2. 教育の実施体制に関する事業	21
3. 学生の募集に関する事業	22
4. 学生の支援に関する事業	24
5. 研究に関する事業	26
6. 社会的活動・国際交流に関する事業	26
7. 管理運営に関する事業	28
8. 財務に関する事業	29
9. 自己点検・評価に関する事業	29
■神戸山手女子中学校・高等学校	
総括	31
1. 教育内容に関する事業	31
2. 教育の実施体制に関する事業	34
3. 生徒募集広報活動に関する事業	36
4. 生徒の支援に関する事業	36
5. 社会的活動・国際交流に関する事業	37
6. 管理・運営に関する事業	37
7. 財務に関する事業	38
8. 自己点検・評価に関する事業	38
IV. 財務の概要	

1. 決算の概要	40
2. 貸借対照表の概要	41

I. はじめに

1.平成27年度の学生・生徒確保対策及び平成28年度入学者の状況

(1) 平成27年度の学生・生徒確保対策

大学及び短期大学の学生確保対策については、平成27年7月に策定した「経営改善計画」に基づいて「学生獲得プロジェクトチーム」(以下「PT」という。)を設置し、従前の入試活動をより充実することにより取り組まれた。

PTには、学長をはじめとする関係教職員が参加することにより、入試対策についての決定を迅速に行い、効果が直ちに現れるよう努めるほか、入試アドバイザーを配置し、高校訪問を緻密に実施するなど学生確保の具体的な施策を推進した。

その結果、大学においては190名の入学生数を目指していたが、編入学生を含め161名と下回ったものの、学生獲得に対しての手ごたえは感じられる入試活動になった。短期大学においても、前年度より若干ではあるが入学生が増加している。

今後とも、より精度を深め学生獲得に効果が表れるようにする。

高校においては、普通科を3コースに分けて募集するとともに、一般(教科試験型)入試や自己推薦型(面接・作文方式)入試に加えて、G方式(グローバル方式:英文エッセイ・面接型)入試を導入した。音楽科では、音楽総合という新しい専攻の募集を続けている。

中学においては、プレテストを実施するとともに、従来の教科型入試に加えて、自己推薦型の入試(Y方式入試)を実施している。

(2) 平成28年度入学生の状況

<大学>平成27年度の「観光文化学科」の入学生は28名であったが、平成28年度の入学生は82名と約3倍に増加した。しかしながら、入学定員は140名であり充足率が58.6%と低い。平成27年度の各学科の内訳は、総合社会学科65名、観光文化学科82の計147名になった。このうちシニア入学生は14名、外国人留学生の入学生は33名となった。

<短大>平成28年度の入学生は入学定員100名に対して91名となっている。これは前年度と比較すると8名の増であった。

<高校>普通科は外部からの入学者の確保目標を140人としていたが、結果は77人であった。音楽科は外部からの入学者の確保目標を30人としていたが、結果は16人であった。普通科は内部進学者と合わせて107人となり、昨年度(139人)より32人減った。音楽科は23人となり、昨年度(19人)より4人増となった。

<中学>90人の確保目標を掲げたが、結果は26人となった。前年度に比べ18人減で、前年度比、40.9%下回った。

(学校別学生・生徒数)

区分	学科	学年	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	増減
大学	大学合計	1年	57	39	195	142	116	111	92	77	71	76	74	39	100	77	52	80	147	67
		2年	136	57	36	172	124	102	96	87	74	69	67	67	36	85	66	156	74	-82
		3年	—	141	61	46	163	112	97	103	89	78	67	66	80	41	87	204	148	-56
		4年	—	—	140	62	45	157	139	113	121	101	89	76	69	83	50	237	225	-12
		合計	193	237	432	422	448	482	424	380	355	324	297	248	285	286	255	677	594	-83
短大	短大合計	1年	549	425	348	321	274	294	277	245	255	240	195	173	135	110	99	83	91	8
		2年	715	528	396	332	315	270	274	277	248	255	236	189	162	127	103	102	81	-21
		合計	1,264	953	744	653	589	564	551	522	503	495	431	382	297	237	202	185	172	-13
高校	高校合計	1年	256	233	229	143	133	132	147	158	154	142	210	171	177	142	176	159	130	-29
		2年	257	254	225	217	137	127	128	139	155	150	137	204	167	173	137	170	152	-18
		3年	259	250	249	220	213	138	123	126	135	151	147	131	203	164	169	133	168	35
		合計	772	737	703	580	483	397	398	423	444	443	494	506	547	479	482	482	450	-12
中学	普通科	1年	126	111	76	74	63	71	74	130	96	110	87	80	63	41	54	44	26	-18
		2年	212	126	110	75	74	64	69	73	130	97	108	86	81	64	40	54	38	-16
		3年	214	210	124	110	71	73	63	70	72	128	95	106	85	78	63	41	53	12
		計	552	447	310	259	208	208	206	273	298	335	290	272	229	183	157	139	117	-22

学園総合計	2,781	2,374	2,189	1,914	1,728	1,651	1,579	1,598	1,600	1,597	1,512	1,388	1,358	1,185	1,096	1,463	1,333	-130
																		-55
																		148

対前年度差	▲648	▲407	▲185	▲275	▲186	▲77	▲72	19	2	▲3	▲85	▲124	▲30	▲173	▲89	367	▲130
対前年度比	-18.90%	-14.64%	-7.79%	-12.56%	-9.72%	-4.46%	-4.36%	1.20%	0.13%	-0.19%	-5.32%	-8.20%	-2.16%	-12.74%	-7.51%	33.49%	-8.89%

2. 平成27年度就職・進学支援対策と卒業・進学の状況

(1) 平成27年度就職・進学支援対策

大学および短期大学における就職支援については、大学、短期大学共に、低学年時からのキャリア支援とともに筆記試験対策を推進してきた結果、その成果は徐々に上がってきている。

また、近年の景気回復に伴い有効求人倍率も1以上で推移しており、この影響を受け、就職率が大学・短期大学ともに前年度を上回り、目標値の90%をクリアする結果となった。

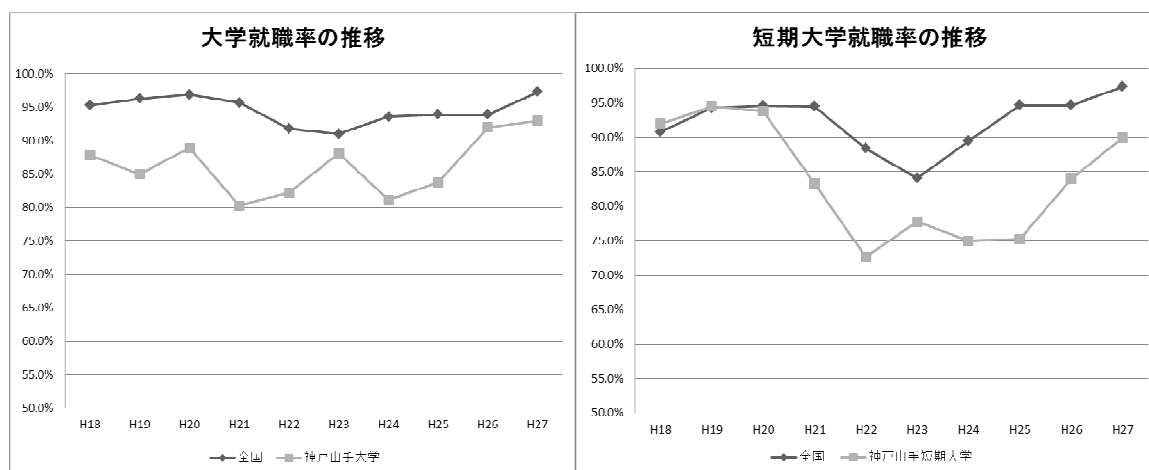
高校における進学対策については、センター受験者、一般入試受験者を増やし、積極的にチャレンジする受験指導を続けている。大学合格状況については、国公立大学合格は同程度人数だったが、関関同立レベル、産近甲龍レベルの合格者数は、昨年と比べて格段に増加した。

(2) 就職・進学の状況

<大学>就職率は93%と前年の92%を上回り、就職希望者も77%と前年の60%を上回った。

<短大>就職率は90%と前年の84%を上回り、就職希望者は74%と前年の76%を若干下回った。

<高校>国公立大、難関私立大学については、普通科は、国立4人(前年度2人)、公立2人(前年度2人)であるが、関関同立は26人(前年度17人)、産近甲龍は43人(前年度24人)であり、合格者数が大幅に伸びた。音楽科は公立が2人(前年度5人)であった。



Ⅱ. 学校法人の概要

1. 法人の目的

この法人は、教育基本法、学校教育法及び私立学校法に従って、学校教育を行い知性の錬磨と情操の陶冶を通じて、社会に対して有為の人材を育成することを目的とする。

2. 設置する学校

(1) 大学

神戸山手大学	現代社会学部	総合社会学科 観光文化学科 環境文化学科 都市交流学科
--------	--------	--------------------------------------

(2) 短期大学

神戸山手短期大学	生活学科 キャリア・コミュニケーション学科 専攻科（英語・ビジネス専攻）
----------	--

(3) 高等学校

神戸山手女子高等学校	全日制課程 普通科 全日制課程 音楽科
------------	------------------------

(4) 中学校

神戸山手女子中学校

3. 学生数

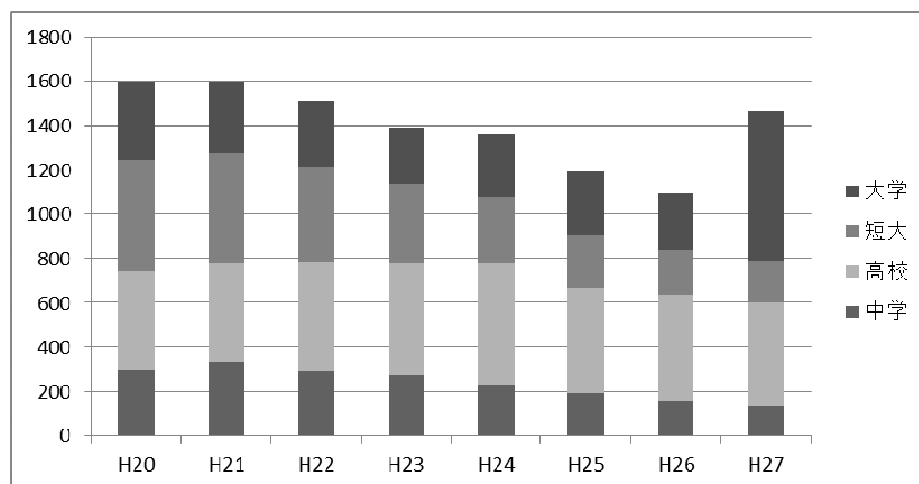
(1) 学生・生徒数

(平成 27 年 5 月 1 日現在)

学 校	学 部	学 科	入学・募集定員	収容定員	学生・生徒数
神戸山手大学	現代社会学部	総合社会学科	80 人	220 人	165 人
		観光文化学科	140 人	580 人	430 人
		環境文化学科	0 人	60 人	53 人
		都市交流学科	0 人	60 人	29 人
大学 計			220 人	1,010 人	677 人
神戸山手短期大学	—	生活学科	100 人	200 人	133 人
		キャリア・コミュニケーション学科	50 人	100 人	52 人
短期大学 計				300 人	185 人
神戸山手女子高等学校	—	普通科	140 人	—	387 人
		音楽科	30 人	—	75 人
高等学校 計			170 人	—	462 人
神戸山手女子中学校	—	普通科	90 人	—	139 人
中学校 計			90 人	—	139 人

(2) 学生・生徒数の推移

(各年度とも5月1日現在)



	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
中学	298	335	290	272	229	189	157	139
高校	444	443	494	506	547	479	482	462
短大	503	495	431	362	297	237	202	185
大学	355	324	297	248	285	286	255	677
学園総合計	1,600	1,597	1,512	1,388	1,358	1,185	1,096	1,463

4. 理事及び監事

(5月31日現在)

区分	氏名	定員	現員				
理事長	芦尾 長司	1	1				
第1号理事	常勤理事 山本 賢治 廣田 勘治 平井 敬員	3	3				
				第2号理事	理事 久富 健治 前田 大	2	2
				監事	— 竹元 忠嗣 辻 雄史	2	2

5. 教職員数

(1) 教員数

神戸山手大学

(各部門とも5月1日現在)

	専任					兼任	任期制 助手	合計
	教授	准教授	講師	助手	計			
現代社会学部	19	19	5	0	43	89	0	132
計	19	19	5	0	43	89	0	132

神戸山手短期大学

	専任					兼任	任期制 助手	合計
	教授	准教授	講師	助手	計			
生活学科	6	2	0	0	8	45	0	53
キャリア・コミュニケーション学科	2	4	0	0	6	13	0	19
計	8	6	0	0	14	58	0	72

神戸山手女子高等学校

	専任 教諭	常勤 講師	計	兼任	合計
普通科	26	7	33	18	51
音楽科	4	1	5	40	45
計	30	8	38	58	96

神戸山手女子中学校

	専任 教諭	常勤 講師	計	兼任	合計
普通科	9	0	9	3	12

(2)職員数

(5月1日現在)

区分	大学	短期大学	高等学校	中学校	本部	合計
専任職員	19	10	5	3	1	38
常勤嘱託	8	3	1	0	0	12
臨時職員	17	9	5	2	0	33
人材派遣	1	1	1	0	4	7
計	45	23	12	5	5	90

■ 神戸山手大学

【 総 括 】

平成 27 年 4 月に神戸夙川学院大学より教育資源継承という形で観光文化学科がスタートし、従前の総合社会学科とあわせて 2 学科体制を軌道に乗せるべく重要な年度となった。また平成 27 年 7 月に文部科学省に提出した「経営改善計画」にもとづき、学生確保を中心として現状の抜本的改革に取り組んだ。

学生確保

学長をトップとする学生獲得プロジェクトチームを発足させ、高校訪問やオープンキャンパスなどに力を注いだ結果、平成 28 年 4 月入学者については、編入学を含めて 161 名の新入生を迎え入れることができた。経営改善計画に記した目標値 190 名には達しなかったものの、次年度につながる一定の成果を得ることができたといえるが、学園の経営改善への道のりはいまだ遠い。

教育改革

総合社会学科の 6 フィールド体制について、まず観光学フィールドを観光文化学科に吸収し、さらに平成 29 年度から環境学フィールドを経済・経営学フィールドに吸収し、4 フィールド体制に再編することを決定した。観光文化学科の教育資源継承については、当初受け入れに不安もあったが、神戸夙川学院大学からの学生・教員と神戸山手大学の学生・教員との融合が大きな問題もなく、順調に軌道に乗りつつある。また自己点検評価や IR 活動の一環として実施した学生満足度調査の分析や、成績評価ガイドラインの作成などを通して、教育の質保証に努めた。

進路指導

景気の回復の兆しも見られる中で、4 年生の就職率は 90%を超えることができた。心配された観光文化学科の就職も、大手航空会社CAの内定が複数出るなど順調なスタートとなった。就職実績をさらに向上すべく、平成 28 年度よりキャリアセンターを発足させることにした。なお兵庫県立大学大学院などへの大学院進学についても一定の成果があった。

研究・社会活動

両学科あわせて 40 名余の教員数であるが、地域連携や外部発信につながる研究・社会活動を展開した。研究業績でも、科学研究費補助金採択や教授昇格など、着実に成果があがりつつある。

その他

- (1) 1 号館の耐震工事に、平成 28 年度から着手することが決まった。
- (2) 平成 27 年 4 月施行の学校教育法改正に伴い、各種規程を改正し、学長のリーダーシップ強化と教授会の役割見直しを図った。

1. 教育内容に関する事業

(1) 教育の充実について

① 学科・学生・教職員間の連携推進

観光文化学科設置に伴う神戸夙川学院大学からの学生・教職員受け入れ初年度であったが、学科間、学生間、教職員間のコミュニケーションを図り、教育的連携に努めた。

② 学修ポートフォリオの継続実施

教育目的の達成状況把握の手段として、平成 25 年度導入の「学修ポートフォリオ」を継続実施した。

- ③ カリキュラムマップの改訂(総合社会学科)
- ④ 留学生・シニア学生・一般学生の交流促進
- ⑤ インターンシップの奨励による就業意欲の向上
- ⑥ 継続的な FD 活動等を通じた改善

「学生による授業評価アンケート調査」、教員による相互授業参観と保護者等への授業公開を兼ねた「FD ウィーク」の継続実施により改善を図った。

- ⑦ 教育情報の積極的公開

(2) 事務部署との連携等による教育改善

- ① IR 委員会と常設委員会や関係部署との連携による教育改革の推進
- ② 学生指導における連携強化
- ③ 資格取得ニーズへの対応

本年度の資格・検定等の取得状況は〔表1-イー①〕、〔表1-イー②〕の通りである。

〔表1-イー①: 本学で所定の単位を修得すれば取得可能な資格の取得実績〕

資格・検定等名称	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
教育職員免許状(高1地歴・中1社会)	—	—	2	0	4	4	6	4	2
二級建築士及び木造建築士受験資格	6	11	4	2	5	2	3	5	8
※一級建築士受験資格	—	—	—	—	—	—	2	3	0
※建築施工管理技士受験資格	—	—	—	—	—	—	0	0	0
※社会調査士	—	—	—	—	—	—	4	4	1
商業施設士受験資格	0	0	0	0	0	0	0	0	0
商業施設士補	0	0	0	0	2	0	0	0	0
ISO14001 内部環境監査員	19	23	6	21	18	19	22	24	25

※印は平成 22 年度以降の入学生対象

〔表1-イー②: 本学で関連科目等を開講している資格・検定資格実績一覧〕

資格・検定等名称	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
秘書検定	2級	13	6	2	2	10	5	3	4	8
	3級	4	2	2	2	6	6	10	2	2
ビジネス文書検定	3級	3	2	4	1	2	2	1		
ビジネス電話検定										2
サービス接遇検定	2級									1
	3級									1
話しことば検定	3級	2	2	4	1	1	1			
販売士検定	3級	1								
環境社会(eco)検定			2	3	4	9	2			
環境管理士検定	3級						1			
色彩検定	2級				1	6	1	1	3	2
	3級	1		1	1	9	3	8	9	5
福祉住環境コーディネータ	2級				3	1	1			
	3級			4	6	2	2	4	2	
リビングスタイリスト	2級		1			7		2	7	1
インテリアコーディネーター							1			1
カラーコーディネータ	3級	1					1			
MOUS 検定		1			8					
漢字検定	3級	2								
	準2級	1				1				
	2級		2			1				

実用英語検定	2級		1		2				1	
観光英語検定									1	
HSK 中国語検定	2級								3	
	3級								2	
	5級								1	
日本語能力試験 1級								1		
総合旅行業務取扱管理者								1		
国内旅行業務取扱管理者			1		4		1	1	2	
情報処理技術者				1						
TOEIC				1 (410)	1 (420)				2 (275) (295)	19
医療事務技能審査試験						1				
CSR 検定試験						1				
宅地建物取引主任者						1				
神戸学検定						1	1			

2. 教育の実施体制に関する事業

(1) 教員の組織体制

各学科の教育活動に支障がでないよう、教員体制を整備している。

[表 2-イ:平成 27 年 4 月 1 日付教員数] ()内は大学設置基準上の必要専任教員数

学 部	学 科	専 任 教 員 数					兼任教員数
		教 授	准教授	講 師	助 教	合 計	
現代社会学部	環境文化学科	—(—)	—	—	—	—(—)	100
	都市交流学科	—(—)	—	—	—	—(—)	
	総合社会学科	9(5)	7	3	0	19(10)	
	観光文化学科	10(5)	12	2	0	24(10)	
	大学全体	—(8)	—	—	—	—(15)	
大 学 合 計		19(18)	19	5	0	43(35)	100

(2) 教育研究・学習環境の整備

① 施設整備事業

- 1号館・5号館の耐震改修計画の策定
- 1・5号館 PCB含有照明器具取替工事
- 1号館屋上及び渡り廊下屋上防水工事
- 2号館加圧ポンプ修理
- 3・4号館漏水補修工事
- 4号館 305教室の天井改修、4階空調機器更新工事
- 5号館アルミサッシ工事、個人研究室等コンセント設備増設工事

② 図書館に関する事業

- 図書館導入教育・利用教育の企画実施
- 『紀要(第17号)』の発行及び紀要論文のPDFファイル化の継続
- One Theme Libraryと「テーマブックコーナー」の継続実施
- 学生選書ツアーの継続実施
- 図書館報『すわやま』(第25号)、『新着図書案内』の発行
- 『図書館年次報告書 2015』の作成
- HPの管理運営

(3)危機管理対策

- ① 学生教育研究災害傷害保険への加入
- ② 海外語学研修旅行のける団体保険に加入
- ③ 危機管理マニュアル(事象別マニュアルを含む)の検証
神戸市中央消防署の指導のもと、平成28年3月4日に1号館において、消防避難訓練及び消火機器取扱い訓練を実施し、危機管理マニュアルを検証した。
- ④ コンピュータのセキュリティ対策
ネットワークはユーザー認証を持つものだけがアクセス可能なシステムを構築するとともに平成23年度よりNOD32のウィルス対策ソフトを導入済みである。

(4)省エネ対策その他

これまで、環境管理委員会を中心にISO14001マニュアルに沿って省エネルギー対策を進めてきたが、平成28年2月17日をもってISO14001の審査登録契約を解除したため、それ以降は自主的な管理体制をとることとなった。学生数の増加に伴い、光熱水費の使用料はすべて昨年度より増加した。今後も引き続き経費削減に向け、学生、教職員の理解を得るよう努力するものである。

- 電気料金、使用料(前年との対比) : 3.6万円減、使用量25,991kwh増
- ガス料金、使用料() : 14.3万円増、使用量5,277m³増
- 水道料金、使用料() : 23.5万円増、使用量506m³増

3. 学生の募集活動に関する事業

(1)入試結果概要

平成28年度入学試験の結果は、[表3-イ]の通り、前年度が学部全体で80人という惨憺たる結果であったため、この対策として本年度より学長を統括者とする「学生獲得プロジェクトチーム」が設置された。入試委員会及び入試課との連携・調整を図りながら募集体制の強化を図ったこともあり、「総合社会学科」「観光文化学科」とも志願者数及び入学者数は前年度を上回る結果となった。

増加したとはいうものの、入学定員充足率ベースで見ると学部全体で66%とまだまだ改善を図らなければならない。特に、平成27年度の卒業生数が193人であったため、平成28年度の収容定員充足率は67%から58%に大きく落ち込む結果となり、70%をクリアできず低迷を続けている([表3-ロ]参照)。

[表3-イ:平成28年度入試結果]

区 分		入学定員	志願者数	入学者数	対前年度増減数	入学定員充足率
現代社会学部	総合社会学科	80	90	65	13	81%
	観光文化学科	140	95	82	54	59%
	合 計	220	185	147	67	66%
	3年次編入	総合社会学科	10	5	5	△2
観光文化学科		欠員募集	9	9	9	—
合 計		—	14	14	7	—

[表3-ロ:入学定員・収容定員充足率推移]

年度 区分	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
入学定員	145	145	190	190	150	150	110	110	110	110	110	220	220
入学者数	116	111	92	77	71	76	74	39	100	77	52	80	147
充足率	80%	76%	48%	40%	47%	50%	67%	35%	90%	77%	47%	36%	66%
収容定員	600	600	645	690	705	720	640	554	504	460	460	1,010	980
在籍者数	450	494	424	379	355	324	297	248	285	286	255	677	578
充足率	75%	82%	65%	54%	50%	45%	46%	44%	56%	62%	55%	67%	58%

[表 3-ハ:入試種別にみる志願者数推移]

入試種別	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	対前年度増減数
併設・提携・指定	29	30	26	30	11	23	19	17	9	31	22
公募制推薦	38	15	21	13	16	7	12	12	20	19	△ 1
A O	—	3	6	8	9	13	8	10	15	39	24
一般	55	60	32	24	27	15	22	23	43	42	△ 1
センター利用	11	19	11	6	12	30	廃止	—	—	—	—
シニア・社会人	1	16	26	23	10	11	10	8	11	14	3
留学生	—	—	—	—	—	45	31	8	27	40	13
合計	134	143	122	104	85	144	102	78	125	185	60

[表 3-ニ:入学率推移]

()内は併願可能な入試形態の内数

区分	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
志願者数	210 (183)	134 (105)	143 (95)	122 (73)	104 (47)	85 (58)	144 (52)	102 (34)	78 (35)	125 (63)	185 (61)
合格者数	153 (126)	116 (87)	126 (78)	112 (63)	96 (40)	73 (49)	136 (48)	98 (32)	73 (30)	119 (57)	175 (57)
入学者数	92 (65)	77 (49)	71 (27)	76 (29)	74 (19)	39 (16)	100 (16)	77 (13)	52 (9)	80 (21)	147 (21)
入学率(%)	60.1 (51.6)	66.4 (56.3)	56.3 (34.6)	67.9 (46.0)	77.1 (47.5)	53.4 (32.7)	73.5 (33.3)	78.6 (40.6)	66.7 (30.0)	64.0 (36.8)	79.4 (36.8)

(2)学生募集活動

● 高校等訪問、資料請求者、オープンキャンパス来場者

平成 27 年度学生募集活動については、神戸山手学園経営改善計画に沿い「学生獲得プロジェクトチーム」と入試委員会・入試課との共同作業により、学生募集活動の取組んだ。

本年度より、主に高校・通信制高校のサポート校・日本語学校・学習塾等の訪問や進学ガイダンスを担当する入試アドバイザー(学生募集担当職員)を配置し、募集体制を強化したこともあり、高校等の訪問数は飛躍的な数となった。([表 3-ホ]参照)

その効果もあり学生募集広報活動においては、[表 3-ヘ]、[表 3-ト]に示した通り、資料請求者数は、ここ 5 年間約 4,000 人以上を確保している。またオープンキャンパス来場者数については、大幅な増加となった。

キャンパス見学会やオープンキャンパス来場者を入試アドバイザーが常にフォローしつつ、その興味・関心層を出願・入学層へつなぐという当初の計画に沿い、高校等教員や保護者も含めアプローチした。

[表 3-ホ:平成 27 年度の高校等訪問回数]

区分	高校	通信制サポート校	日本語学校	学習塾	校内ガイダンス	合計
訪問等のべ数	1,034	240	243	264	51	1,832

※)平成 26 年度訪問高校数(357 校)、平成 25 年度(363 校)

[表 3-ヘ:資料請求者数推移]

H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	対前年度増減数(増減率)
3,866	3,185	3,939	4,773	4,179	4,068	4,279	4,262	4,916	654(15.3%)

[表 3-ト:オープンキャンパス来場者数推移] ※いずれも受験生のみであり、保護者は含まず。

H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	対前年度増減数(増減率)
121	109	182	141	188	189	221	319	531	299(128.9%)

4. 学生の支援に関する事業

本年度も、学生の満足度向上を目標に置き、様々な支援を展開した。

(1) 学生生活支援

① 障がい学生支援

本年度は1人の学生に対して受講時にノートテーカーを配置する支援を行った。

② 社会人学生支援

本年度も、シニア学生は、シニア学生交流室やゼミなどを中心に学年を超えた活発な交流をくり広げており、特別な支援を要する場面はほとんどない。

③ 外国人学生支援

これまでの留学生の在籍状況は、〔表 4-イ〕の通りである。本年度より留学生支援室を学生・キャリア支援課に統合し、国際交流センターとも連携をとりながら支援を展開した。

〔表 4-イ:外国人学生在籍状況〕

(各年度5月1日現在の在学者数)

年度 学年	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
1年	10	4	3	38	28	8	26
2年	4	8	2	2	28	26	32
3年	4	1	7	11	10	26	44
4年	5	3	1	6	9	10	40
合計	23	16	13	57	75	70	142
国別内訳	中国 19 韓国 1 ネパール 2 スリランカ 1	中国 13 韓国 1 ベトナム 1 スリランカ 1	中国 11 スリランカ 1 ネパール 1	中国 56 モンゴル 1	中国 73 モンゴル 1 ベトナム 1	中国 68 モンゴル 1 ベトナム 1	中国 119 韓国 3 台湾 6 ベトナム 8 ネパール 5 スリランカ 1

④ メンタルケアを要する学生への支援

学生相談室における個別的、緻密な対応をベースに、保健室の看護師やゼミ担当教員、職員と保護者が連携し支援の拡充に努めた。

〔表 4-ロ:学生相談室年間利用件数推移表〕 ※併設短大との合計数値である

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
利用件数	593	447	600	511	600	573

⑤ 経済的困窮学生への支援

奨学金の支給等の状況は〔表 4-ハ〕の通りである。

〔表 4-ハ:奨学金受給者・学費延分納者状況表〕

区分	種 類	人 数								
		H23	H24	H25	H26	H27				
奨 学 金	日本学生支援機構 第一種	12	16	17	12	4				
	日本学生支援機構 第二種	34	57	43	39	9				
	神戸山手大学奨学金	0	0	2	2	1				
	神戸山手大学特待生奨学金	6	6	6	5	6				
	神戸山手大学 育友会奨学金	0	0	0	0	1				
	神戸山手学園 友松会奨学金	0	0	0	0	0				
	遠隔地下宿生奨学金	3	5	3	2	11				
	ファミリー奨学金	2	6	2	1	2				
	シニア奨学金	47	43	9	33	33				
	日本学生支援機構 私費外国人留学生学習奨励費	1	1	5	2	0				
	兵庫県私費外国人留学生奨学金	1	3	3	4	0				
学 費	延納	12	7	20	9	88				
	分納	12	24	27	34	23	43	12	21	53

⑥ 修学支援

修学面においてはゼミ担当教員と教務課、学生・キャリア支援課、共同研究室のスタッフが連携を密にし、適切かつきめ細かな指導を展開した。本年度の退学・除籍者は〔表 4-ニ〕の通りであり、学部全体の退学・除籍率は、3年連続で前年度より減少している。

〔表 4-ニ:平成 27 年度退学・除籍状況〕

区分	学部・学科	1年	2年	3年	4年	合計	退学・除籍率
退学者数	総合社会学科	6	2	3		11	6.7%
	観光文化学科	1	9	2	6	18	4.2%
	環境文化学科				1	1	1.9%
	都市交流学科				2	2	6.9%
	学部全体	7	11	5	9	32	4.7%
除籍者数	総合社会学科	3	0	3		6	3.6%
	観光文化学科	2	4	0	0	6	1.4%
	環境文化学科				2	2	3.8%
	都市交流学科				0	0	0%
	学部全体	5	4	3	2	14	2.1%
合計	総合社会学科	9	2	6		17	8.5%
	観光文化学科	3	13	2	6	24	5.6%
	環境文化学科				3	3	5.7%
	都市交流学科				2	2	6.9%
	学部全体	12	15	8	10	46	6.8%
	退学・除籍率	15.0%	9.6%	3.9%	4.2%	6.8%	

⑦ 課外活動支援

さらなる課外活動の活性化に向け、本年度も 2 月にリーダースキャンプを実施し、各クラブ・サークルのリーダー養成に努めた。

⑧ その他

- 5月30日(土):3年生保護者対象「懇談会」実施(出席者数:総合社会 5人、観光文化 27人)
- 9月19日(土):観光文化学科保護者対象「個別懇談会」実施(出席者数:2年生 8人、3年生 1人、4年生 13人)

(2)就職・進路支援体制

近年の就職率と就職希望率の推移は、〔表 4-ホ〕に示した通りであるが、平成 27 年度は過去 5 か年で最高となった。売手市場ではあるが、転入学生の波及効果や相乗効果といえる。

〔表 4-ホ:就職・進路状況〕

区分	年度										
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
卒業生数	120	107	87	89	71	70	62	50	67	40	197
就職希望者数	82	80	72	71	45	42	37	37	40	24	151
就職者数	72	68	64	57	37	37	30	31	30	22	141
就職希望率(%)	53	75	83	80	63	60	60	74	52	60	77
就職率(%)	88	85	89	80	82	88	81	84	75	92	93

5. 研究に関する事業

(1)外部研究資金の活用

① 科学研究費補助金

外部研究資金の活用をめざし、科学研究費補助金申請に取り組んだが、その結果は〔表 5-イ〕の通り、申請 6 件に対し、新規採択 2 件と研究分担 2 件であった。

[表 5-イ:外部研究資金採択結果]

内 容	直接経費	間接経費
科学研究助成基金助成金(基盤研究C) 「ライフヒストリーとジェンダーからみた日英の庭園の思想と実践に関する地理学的研究」	¥900,000	¥270,000
科学研究費補助金(基盤研究B:分担) (金沢大学:人間科学系 中島弘二准教授) 自然の生産と消費に関する批判地理学的研究	¥350,000	¥105,000
科学研究費補助金(基盤研究B:分担) (九州大学大学院:人間科学研究院 遠城明雄教授) 「commons」をめぐる思想・理論・社会的実践に関する地理学的研究	¥300,000	¥90,000
科学研究助成基金助成金(基盤研究C) 不確実事象の予測に関する研究:「フラグを立てる」現象から	¥800,000	¥240,000
科学研究費補助金(基盤研究B:海外調査研究) 南アジアの紅玉髓製工芸品の流通と価値観-「伝統」と社会システムの変容の考察	¥2,010,000	¥603,000
科学研究助成基金助成金(基盤研究C) 台湾客家語南部四縣話と北部四縣話の比較研究	¥700,000	¥210,000
科学研究助成基金助成金(若手研究B) イタリアの書記中世教会堂建築における求心的空間~周歩廊の機能と変遷	¥800,000	¥240,000
科学研究助成基金助成金(若手研究B) 近代フランスにおける反疎外論的社会思想の論理と系譜についての研究	¥500,000	¥150,000
科学研究助成基金助成金(挑戦的萌芽研究) 消費者の求める「本物感」-本物感尺度の開発と広告への応用-	¥700,000	¥210,000
科学研究助成基金助成金(基盤研究C:分担) (近畿大学経営学部 高橋 一夫教授) 観光目的地におけるマネジメント組織に関する理論的・実証的研究	¥250,000	¥75,000
科学研究助成基金助成金(若手研究B) 観光学原論と観光教育への哲学・倫理学理論の導入に関する基礎的研究	¥600,000	¥180,000
科学研究助成基金助成金(基盤研究C:分担) (大阪府立大学経済学研究科 上村 隆広 教授) 高野山の外国人観光客に見る観光体験の総合的研究	¥200,000	¥60,000
科学研究助成基金助成金(基盤研究C:分担) (兵庫教育大学:学校教育研究科 吉田達弘准教授) ダイナミック・アセスメントに基づく英語教育の指導・評価枠組の開発	¥100,000	¥30,000

② 受託研究

内 容	直接経費	間接経費
兵庫県商工会連合会 (受託研究)	¥700,000	—

経営発達支援計画策定に係る調査事業 ○地域小規模事業者の実態調査・分析を行い、経営発達支援計画作成に必要な地域の客観的な数値・データを収集する。		
---	--	--

(2) 個人研究費加重配分の取扱い

個人研究費の加重配分(総額 150 万円)については、4 件を採択した。

(3) 研究成果の外部発信

本年度発行の『紀要』への論文投稿は 16 人・13 件であった。また、平成 26 年度の研究業績は〔表 5-ロ〕の通りである。

〔表 5-ロ:平成 26 年度研究業績総括表〕

業績区分	教員数	本数・編数等
著書・論文	14	40
その他の著作	7	22
学会発表	8	21
作品等	1	2
講演会等社会的活動	7	25
受賞	0	0

6. 社会的活動、国際交流に関する事業

(1) 社会的活動に関する事業

① 生涯学習ニーズへの対応

● 社会人学生の受入れ

50 歳以上の社会人を対象とする「シニア 50+入試」を導入しているが、その入学者数と卒業者数の推移は〔表 6-イ〕の通りである。

〔表 6-イ:シニア入学者数・卒業者数推移〕

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
入学者数	13	16	17	7	10	10	8	11	11
卒業者数	—	—	—	11	8	12	7	8	—

● 科目等履修生の受入れ

本年度は 9 人(内 8 人が前年度からの継続)の科目等履修生を受け入れた。

● 公開講座の開設・運営

地域社会連携センターによる公開講座は、〔表 6-ロ〕の通りであった。

〔表 6-ロ:公開講座収支状況等推移〕

区分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
開講講座数	42	48	38	36	36	30	29
受講者数	926	792	562	515	462	448	425
収入(円)	7,835,500	7,949,000	7,307,000	4,352,000	3,792,100	3,379,200	2,967,400
支出(円)	6,445,682	5,800,920	5,569,957	4,611,503	2,986,251	2,845,843	2,360,131
差額(円)	1,389,818	2,148,080	1,737,043	▲259,503	805,849	533,357	607,269

② 地域社会との連携・地域社会への貢献

● 施設開放

本学の教育・研究活動に支障のない範囲で、施設の貸出を実施している。使用料収入の推移は〔表 6-ハ〕の通りである。

〔表 6-ハ:施設貸出に伴う使用料収入推移〕

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
のべ貸出日数	54	47	36	36	26	20	29

のべ使用団体数	17	14	13	15	17	10	11
使用料収入(円)	12,380,761	11,698,424	9,919,032	9,674,631	5,083,536	4,842,850	7,055,100

● 地域連携・貢献事業への参加

その他〔表 6-ニ〕に示した地域のイベント等に参加協力した。

〔表 6-ニ: 地域連携・貢献事業一覧〕

月/日(曜)	連携・貢献事業内容	協力団体等
4/11(土)	神戸市水道局連携協力事業「神戸市水の科学博物館共催イベント」にてキッズエコ工作指導	中野講師・ゼミ学生
4/19(日)	相楽園連携協力事業「つつじ遊山」にてお点前披露	茶道部
4/19(日)	生田文化会館「いくた寄席」運営スタッフボランティア参加	学生有志
4/29(水)	COMIN' KOBE(西日本最大のチャリティロックイベント)共催	観光文化学科学生
5/14(木)	Music Tour 2015(吹奏楽部学内コンサート)開催	吹奏楽部
5/23(土)~ 6/5(金)	ホテル観察キャンパス開放(期間中の来場者数:2,700人)	吉岡教授・宇治川ホテル研究部
6/6(土)	スマスイサイエンスカフェにて講演(須磨水族園)	吉岡教授
7/18(土)	神戸市水道局連携協力事業「神戸市水の科学博物館共催イベント」にてキッズエコ工作指導	中野講師・ゼミ学生
7/19(日)	生田文化会館「いくた寄席」運営スタッフボランティア参加	学生有志
7/22(水)	セミナー「ヘルスツーリズムによる地方再生」開催	西村教授
8/2(日)	ハーバーランドスペースシアター夏祭りにてダンスパフォーマンス披露	ダンス部
8/16(日)	「第6回すわやま盆踊り」にて演奏	吹奏楽部
8/29(土)・ 30(日)	相楽園連携協力事業「にわのあかり2015」ボランティア参加	山崎教授・ゼミ学生
9/20(日)	兵庫県「元気 de アート」丹波篠山・まちなみアートフェスティバル参加協力	山崎教授・ゼミ学生
10/17(土)	神戸市中央区連携協力事業「秋華祭2015」(コミスタこうべ)にてダンスパフォーマンス披露	ダンス部
10/28(水)	外国客船「セレブリティ・ミレニウム」入港歓迎演奏	吹奏楽部
10/30(金)	社会人野球日本選手権大会応援演奏	
10/31(土)	相楽園連携協力事業「神戸菊花展」にてお点前披露	茶道部
11/7(土)	日本パン学会国際シンポジウム「国際都市神戸におけるパン文化の創造とパンによる地域創生」開催	小槻准教授
10/17(土) 10/24(土) 11/7(土) 11/14(土)	公益社団法人ひょうごツーリズム協会主催「学生ガイドと歩こう、ひょうごのまち歩き」コースガイド協力 ①「旧西国街道 わくわく! こうべの歴史体験ツアー」 ②「世界の宗教寺院めぐり 神戸ゆかりの明治の偉人を訪ねて」	山崎教授・ゼミ学生
11/14(土)	神戸市水道局連携協力事業「神戸市水の科学博物館にてキッズエコ工作指導	中野講師・ゼミ学生
11/28(土)	森を歩きストレス解消調査参加・効果測定指導(多可町)	西村教授
12/4(金)~ 12/13(日)	KOBE ルミナリエ募金ボランティア活動	学生有志 44人 (のべ 103人)
1/21(木)	Music Tour 2016(吹奏楽部学内コンサート)開催	吹奏楽部
1/19(火) 22(金)	南京町との連携行事「2016 南京町春節祭」インフォメーションブース事前学習	観光文化学科学生
2/11(木)~ 2/14(日)	「2016 南京町春節祭」インフォメーションブース運営協力	観光文化学科学生 30人
3/5(土)	外国客船「セブンシーズ・ボイジャー」入港歓迎演奏	吹奏楽部

3/26(土)	シンポジウム「人『財』イノベーションと大学教育～兵庫新時代 つながる ヒト・企業・地域」開催	本学3号館
---------	---	-------

● 地域清掃活動

昨年度に引き続き、毎月1回、学生・教職員有志により地域清掃活動を実施した。

(2) 国際交流に関する事業

① 海外語学研修

本年度は、希望者がなく中止した。

② 外国人留学生の受け入れ

平成24年度入試より「外国人留学生入試」(3年次編入学試験を含む)の新たな導入に伴い、留学生の経済的負担を軽減すべく「神戸山手大学外国人留学生学費減免規程」を整備している。

(3) その他

① 卒業生との情報交換

ホームカミングデーの開催(大学祭開催時)

② 保護者との連携

育友会との連携や保護者懇談会の開催

7. 管理運営に関する事業

(1) 学部・学科運営体制

① 平成27年度の「観光文化学科」設置に伴い「観光文化学科」より学長補佐と学部長補佐を任命し円滑な学部運営に努めた。

② 学校教育法及び同法施行規則の改正に伴う学則及び改正学内諸規程の施行によりガバナンスの確立を図った。

(2) 事務組織体制

各部署の業務見直しを進めるとともに、「神戸山手学園経営改善計画」の履行に向け、次年度よりの「キャリアセンター」の設置や学内LAN、サーバーの管理、ホームページの管理運営業務の図書館から法人事務局総務・企画課への移管を決定し準備を進めた。

8. 財務に関する事業

(1) 学生納付金収入確保

この数年来、本学の財務体質を改善すべく人件費を含め、教育研究経費と管理経費の削減に努めてきた。しかしながら、支出超過の歯止めはかからず、悪化の一途をたどっている。この最大の要因である入学定員確保による学生納付金収入の増加という命題を教職員一丸となって取り組んできたが、克服できなかった。

(2) 補助金等外部資金の確保

① 私立大学等経常費補助金について

一般補助を含め、私立大学等経常費補助金は本学園収入を支える一つの柱である。それだけに、学生納付金収入とともにその確保が本学園の収支改善の大きな命題となっている。近年は収容定員充足率の低下が続き低迷していたが、本年度は転入学生の受け入れにより学生数が大きく増加したことから、補助金も飛躍的に伸びた。補助金交付額の推移は〔表8-イ〕の通りである。

〔表8-イ:私立大学等経常経費補助金交付額推移表〕

(千円)

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
一般補助	44,364	35,676	42,065	45,764	51,263	40,801	54,909	37,464	111,581
特別補助	19,264	35,877	42,773	39,328	8,686	12,369	3,951	4,479	12,585

合計	63,628	71,553	84,838	85,092	59,922	53,170	58,860	41,943	124,166
----	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------

② 科学研究費補助金等収入について

「5. 研究に関する事業」参照。(間接経費が実質的には収入となる。)

(3) その他の収入確保

公開講座や施設貸出による収入状況については、「6. 社会的活動、国際交流に関する事業」参照。

(4) 支出の削減

支出予算の策定段階より、集中と選択による編成方針を徹底しつつ教育研究経費と管理経費の見直しを進めた。

9. 自己点検・評価に関する事業

(1) 学生による授業改善のためのアンケート実施

全授業科目について、年 2 回学内ホームページ上において、[授業理解度]、[興味・関心度]、[学力]、[学習量]、[専門性]などの項目を中心とした授業アンケートを実施している。その集計結果を各授業担当教員にフィードバックし授業改善に活用している。

(2) FD 活動

本年度も 9 年目となる「FD ウィーク」(平成 27 年 11 月 23 日～11 月 27 日)を継続実施し、教員相互による授業参観に加え、職員や保護者、併設短大教員、高校教員など広く授業を公開し、参観レポートに基づく授業内容や方法の工夫改善に努めた。

また、以下により「FD・SD 合同研修会」を実施した。

- 日 時:平成 28 年 10 月 15 日(木) 15:30～17:00
- テーマ:授業科目のナンバリングについて

(3) SD 活動

本学が加盟する日本私立大学協会や大学コンソーシアムひょうご神戸などを主体とする研修会に積極的に参加し、職員の資質向上を図った。

さらに、本年度は、本学の広報の見直しを進めるべく、学生獲得プロジェクトチーム会議において実施が決定された(株)電通西日本の企画による「神戸山手大学・神戸山手短期大学の広報プランの策定に向けたファシリテーションプログラム」を、以下により関係教職員で実施した。

①第 1 回目:平成 27 年 8 月 19 日(水)

②第 2 回目:平成 27 年 9 月 15 日(火)

また、マイナンバー制度の運用開始(平成 28 年 1 月 1 日)に先立ち、SD・FD 研修の一環として、以下により「マイナンバー制度 管理者・事務担当者説明会」を実施した。

開催日:平成 27 年 8 月 4 日(火)

(4) 大学機関別認証評価への対応

公益財団法人日本高等教育評価機構における認証評価受審を踏まえ、「学修ポートフォリオ」を継続実施するとともに、「基準 2. 学修と教授(学生の受入れ、教育課程と教授方法、学修及び授業の支援、単位認定、卒業・修了認定等、キャリアガイダンス、教育目的の達成状況の評価とフィードバック、学生サービス、教員の配置と職能開発等、教育環境の整備)の自己点検・評価を実施した。

以上

■ 神戸山手短期大学

【 総 括 】

平成 25 年度、「神戸山手短期大学学科再編検討会議」において検討を進め、平成 26 年度より「神戸山手短期大学改組転換特別委員会」において継続して検討を重ねた「現代生活学科」設置(平成 28 年度)について設置届出書類を文部科学省に提出し、新学科を軌道に乗せるための諸準備に取り組んだ。

さらに、「神戸山手学園経営改善5ヵ年計画」の策定に伴い、平成 27 年度より学生確保等その着実な履行に取り組んだ。

学生確保

平成 28 年度入試は新学科である「現代生活学科」の初めての入試であったが、学長をトップとする「学生確保プロジェクト」を発足させ、入試委員会及び入試課との連携・調整を図りながら募集体制の強化に努めた。

教育改革

平成 28 年度「現代生活学科」設置を見据えながら、平成 27 年度カリキュラムの削減に努めつつ、授業内容の充実と改革を進めた。また、自己点検・評価推進委員会においては、昨年度に引き続き二期目の第三者評価で問われる教育の質保証への取り組み、学習成果の評価方法について検討し、全科目について学習成果報告書を提出してもらい、学習成果の定量的評価の基礎資料とした。

進路指導

本年度の就職率は、経済状況の好転もあって 90%(昨年度 84%)と 90%の大台を回復した。

研究・社会活動

教員数は年々少なくなっているが、紀要に見られるように共同研究を含めた研究活動に取り組むとともに、科学研究費助成金を受けた研究も行っている。また、地域連携協力事業やボランティア活動などの社会活動も活発に行っている。

1.教育内容に関する事業

(1)重点事業

各学科の教育目標と人材育成の目標達成に向けて、下記の事項を重点として積極的な教育活動を展開した。

① 人間力の向上

豊かな感性、豊富な知識、必要な技能をもって、家庭生活を営み、社会活動に参画しうる人間力の涵養に取り組んだ。また、「人間関係形成能力」「社会人基礎力」「就職基礎能力」を育むための諸対策について戦略的かつ着実な実施を推進した。

② 進路(人生設計)の選択拡大

短期大学制度の特色を生かし、職業人となるか、学問の道を進むかの選択肢(就学-就職、就学-就学、就学-就職-就学)を提供するための出口対策を強化に努めた。

③ 地域活動の推進

本年度の主な地域活動は[表 6-ハ:地域連携・貢献事業一覧]の通りである。

④ 資格取得の奨励

本年度の主な資格取得状況は[表 1-イ:資格取得実績一覧]の通りである。

[表1-イ:資格取得実績一覧]

<生活学科>

区分	資格・検定等名称	人数		
本学で所定の単位を修得すれば取得可能な資格	情報処理士	5		
	上級情報処理士	2		
	フードコーディネーター(3級認定)	12		
関連科目等を開講している資格・検定	フードスペシャリスト	4	商品装飾展示技能検定3級	11
	色彩検定2級・3級	4・6	リビングスタイリスト2級	0
	ファッション販売能力検定2級・3級	0・2	家庭料理技能検定3級	3
	ピアヘルパー	2	秘書技能検定2級・3級	3・14

<キャリア・コミュニケーション学科>

区分	資格・検定等名称	人数		
本学で所定の単位を修得すれば取得可能な資格	J-shine 認定者	6		
関連科目等を開講している資格・検定	ABC(アシスタントブライダル)検定	5	サービス接客検定2級	2
	色彩検定2級・3級	4・5	話しことば検定	1
	秘書技能検定準1級・2級・3級	0・12・16	ビジネス電話検定A級・B級	2・5
	ビジネス文書検定2級・3級	0・11	英検準2級	1
	マナー・プロトコール検定3級	12	TOEIC(受験者)	2(平均348点)
	厚生労働省認定ホテル職業能力認定試験宿泊部門フロントレベルII	5	医療事務資格	1
			ホテル職業能力 レベル2	4

(2)学科重点事業

生活学科

「生活のプロとして、家庭や地域社会、企業において活躍できる人材育成」を目標に、本年度は特に以下の項目を重視した。

- ① 広い意味での研究力の育成
「情報検索(2)」、「アンケート演習(1)～(2)」の必修化による研究力育成
- ② 「保育士試験対策講座」開設

キャリア・コミュニケーション学科

「未来を見据えたキャリア教育に様々な切り口から取り組み、社会への接続を念頭に置いた人材の育成」を主軸に、本年度は主に以下の取組みを通じた教育活動を展開した。

- ① ポートフォリオの活用
- ② 合同研究室の「ラーニング・コモンズ」への名称変更による学生支援強化
- ③ ホテル・ビジネス関連プロジェクト学習の拡充
- ④ ピア・ステューデント制による学生間交流の促進
- ⑤ 英語教育の充実
 - 聖ミカエル国際学校との連携:派遣学生2人
 - J-shine(小学校英語指導者資格)資格認定候補(準資格):6人
 - カナダ留学の実施:参加学生3人
- ⑥ デザインゼミ作品展示会や地域貢献イベント等への積極的参加

2. 教育の実施体制に関する事業

(1)教員の組織体制

平成28年度以降の学科再編計画の検討と連動させながら、教員体制を整備しており、本年度は〔表2-

イ)の通りの教員配置であった。

[表 2-イ:平成 27 年 4 月 1 日付専任教員数] ()内は設置基準上の必要専任教員数

学 科	配置教員数(必要専任教員数)				
	教授	准教授	講師	助教	合計
生活学科	6(2)	2	0	0	8(5)
キャリア・コミュニケーション学科	2(2)	4	0	0	6(5)
短大全体	8(5)	6	0	0	14(13)

(2)教育研究・学習環境の整備

① 施設整備事業

- 1号館・5号館の耐震改修計画の策定
- 1・5号館 PCB 含有照明器具取替工事
- 1号館屋上及び渡り廊下屋上防水工事
- 2号館加圧ポンプ修理
- 3・4号館漏水補修工事
- 4号館 305 教室の天井改修、4階空調機器更新工事
- 5号館アルミサッシ工事、個人研究室等コンセント設備増設工事

② 図書館に関する事業

- 図書館導入教育・利用教育の企画実施
- 『紀要(第 17 号)』の発行及び紀要論文の PDF ファイル化の継続
- One Theme Library と「テーマブックコーナー」の継続実施
- 学生選書ツアーの継続実施
- 図書館報『すわやま』(第 25 号)、『新着図書案内』の発行
- 『図書館年次報告書 2015』の作成
- HP の管理運営

(3)危機管理対策

- ① 学生教育研究災害傷害保険への加入
- ② 海外語学研修旅行のける団体保険に加入
- ③ 危機管理マニュアル(事象別マニュアルを含む)の検証
神戸市中央消防署の指導の下、平成28年3月4日に1号館において、消防避難訓練及び消化危機
取扱い訓練を実施し、危機管理マニュアルを検証した。
- ④ コンピュータのセキュリティ対策
ネットワークはユーザー認証を持つものだけがアクセス可能な システムを構築するとともに平成 23
年度より NOD32 のウィルス対策ソフトを導入済みである。

(4)省エネ対策その他

これまで、環境管理委員会を中心に ISO14001 マニュアルに沿って省エネルギー対策を進めてきたが、平成 28 年 2 月 17 日をもって ISO14001 の審査登録契約を解除したため、それ以降は自主的な管理体制をとることとなった。学生数の増加に伴い、光熱水費の使用料はすべて昨年度より増加した。今後も引き続き経費削減に向け、学生、教職員の理解を得るよう努力するものである。

- 電気料金、使用料(前年との対比) : 3.6 万円減、使用量 25,991kwh 増)
- ガス料金、使用料(" : 14.3 万円増、使用量 5,277 m³増)
- 水道料金、使用料(" : 23.5 万円増、使用量 506 m³増)

3. 学生の募集活動に関する事業

(1)入試結果概要

現行の「生活学科」と「キャリア・コミュニケーション学科」の学生募集を停止し、平成 28 年度設置の新学科「現代生活学科」初の学生募集であった。神戸山手学園経営改善計画に沿い、本年度より学長を統括者とする「学生獲得プロジェクトチーム」が設置された。この「学生獲得プロジェクトチーム」と入試委員会・入試課との共同作業により、学生募集活動に取り組んだ。

平成 28 年度入学試験の結果は、〔表 3-イ〕の通り、事業計画における入学定員確保につなげるという目標達成は果たせなかった。特に、生活学科が大きく減少した。

〔表 3-イ：平成 28 年度入試結果〕

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	入学定員充足率
現代生活学科	100	101	91	91%
H27 2 学科合計	150	101	83	55%

入試種別ごとの志願者数の前年度対比は〔表 3-ロ〕に示した通り、AO 入試で 50%増加したものの、それ以外の入試はすべて減少となり、結果的に前年度志願者総数を上回ることができなかった。

〔表 3-ロ：入試種別にみる志願者数対比〕

学科	入試種別	H25	H26	H27	H28	対前年度増減数
生 活	併設・提携・指定	33	37	26	学生募集停止	
	公募・自己推薦(専願)	4	7	3		
	公募制推薦(併願)	5	4	5		
	A O	31	26	21		
	一 般	13	16	9		
	社会人	4	1	1		
	学科合計	90	91	65		
キャリア・コミュニケーション	併設・提携・指定	23	13	14		
	公募・自己推薦(専願)	3	0	5		
	公募制推薦(併願)	5	3	5		
	A O	5	6	3		
	一 般	6	9	7		
	社会人	1	1	2		
	学科合計	43	32	36		
現代生活	併設・提携・指定				38	
	公募・自己推薦(専願)				7	
	公募制推薦(併願)				8	
	A O				36	
	一 般				12	
	社会人				0	
	学科合計				101	
合 計	併設・提携・指定	56	50	40	38	△ 2
	公募・自己推薦(専願)	7	7	8	7	△ 1
	公募制推薦(併願)	10	7	10	8	△ 2
	A O	36	32	24	36	12
	一 般	19	25	16	12	△ 4
	社会人	5	2	3	0	△ 3
	合 計	133	123	101	101	0

[表 3-ハ:入学率推移表]

学 科	区 分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
生 活	志願者数	128	122	76	90	91	65	学生募集停止	
	合格者数	113	100	70	88	88	63		
	入学者数	105	100	65	73	73	58		
	入学率(%)	82.0	82.0	85.5	81.1	80.2	89.2		
キャリア・コミュニケーション	志願者数	59	55	44	45	32	36		
	合格者数	54	49	43	44	32	35		
	入学者数	44	45	39	37	26	25		
	入学率(%)	74.6	81.8	88.6	82.2	81.3	69.4		
現代生活	志願者数	/	/	/	/	/	/		101
	合格者数	/	/	/	/	/	/		99
	入学者数	/	/	/	/	/	/		91
	入学率(%)	/	/	/	/	/	/		90.1
合 計	志願者数	187	177	120	135	123	101	101	
	合格者数	167	149	113	132	120	98	99	
	入学者数	149	145	104	110	99	83	91	
	入学率(%)	89.2	98.0	92.0	81.5	80.5	82.2	90.1	

(2) 学生募集活動

① 高校等訪問、資料請求者、オープンキャンパス来場者

平成 27 年度学生募集活動については、神戸山手学園経営改善計画に沿い「学生獲得プロジェクトチーム」と入試委員会・入試課との共同作業により、学生募集活動に取り組んだ。

本年度より、主に高校・通信制高校のサポート校・日本語学校・学習塾等の訪問や進学ガイダンスを担当する入試アドバイザー(学生募集担当職員)を配置し、募集体制を強化したこともあり、高校等の訪問数は飛躍的な数となった。([表 3-ニ]参照)

また、[表 3-ホ]、[表 3-ヘ]に示した通り、資料請求者数は大幅減ながら、オープンキャンパス来場者数は大きく増加した。

[表 3-ニ:平成 27 年度の高校等訪問回数]

区 分	高校	通信制サポート校	日本語学校	学習塾	校内ガイダンス	合 計
訪問等のべ数	1,034	240	243	264	51	1,832

※)平成 26 年度訪問高校数(357 校)、平成 25 年度(363 校)

[表 3-ホ:資料請求者数推移]

H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	対前年度増減数(増減率)
4,169	3,853	3,235	2,856	2,834	3,831	3,152	△679(17.7%)

[表 3-ヘ:オープンキャンパス来場者数推移] ※いずれも受験生のみであり、保護者は含まず。

H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	対前年度増減数(増減率)
471	489	422	440	430	372	506	143(39.3%)

4. 学生の支援に関する事業

本年度も、学生の満足度向上を目標に置き、様々な支援を展開した。

(1) 学生生活支援

① 障がい学生支援

本年度は支援を必要とする学生はいなかった。

② 社会人学生支援

支援を必要とする社会人学生はいないが、併設大学の経験やノウハウを今後を生かしていく。

③ 外国人学生支援

本年度も併設大学とも共同し、より一層の支援拡充に努めた。

④ メンタルケアを要する学生への支援

学生相談室における個別的、緻密な対応をベースに、保健室の看護師やゼミ担当教員、職員と保護者が連携し支援の拡充に努めた。

[表 4-イ: 学生相談室年間利用件数推移表] ※併設大学との合計数値である

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
利用件数	593	447	600	511	600	573

⑤ 経済的困窮学生への支援

各種奨学金や学費の延納・分納の取扱い等により迅速かつ適切な対応を心がけた。奨学金の支給等の状況は[表 4-ロ]の通りである。

[表 4-ロ: 奨学金受給者・学費延分納者状況表]

区分	種 類	人 数						
		H23	H24	H25	H26	H27		
奨 学 金	日本学生支援機構 第一種	29	24	25	18	4		
	日本学生支援機構 第二種	106	84	59	55	3		
	神戸山手短期大学奨学金	0	2	1	3	1		
	神戸山手短期大学 育友会奨学金	1	0	0	0	0		
	御子柴特別奨学金	0	0	0	0	0		
	神戸山手学園 友松会奨学金	0	0	0	0	0		
	遠隔地下宿生奨学金	24	17	16	9	6		
	ファミリー奨学金	7	3	7	5	6		
	日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費 兵庫県私費外国人留学生奨学金	0 1	0 0	0 0	0 0	0 0		
学 費	前期延分納	8	21	6	8	3	3	5
	後期延分納	13	14	20	15	23	2	5

⑥ 修学支援

修学面においてはゼミ担当教員と教務課、学生・キャリア支援課、合同研究室のスタッフが連携を密にし、適切かつきめ細かな指導を展開した。修学支援のみならず様々な支援により退学者や除籍者防止に努めている([表 4-ハ]参照)が、平成 21 年度(20 人・4.3%)、平成 22 年度(19 人・4.4%)、平成 23 年度(24 人・6.6%)、平成 24 年度(24 人・8.2%)、平成 25 年度(12 人・5.3%)、平成 26 年度(10 人・5.0%)、平成 27 年度(12 人・6.5%)と推移している。

[表 4-ハ: 平成 27 年度退学・除籍状況] 平成 28 年 3 月 31 日現在

区分	学 科	1 年	2 年	合計	退学・除籍率
退学者数	生 活	4	3	7	5.3%
	キャリア・コミュニケーション	3	1	4	7.7%
	全 体	7	4	11	5.9%
除籍者数	生 活	1	0	1	0.8%
	キャリア・コミュニケーション	0	0	0	0%
	全 体	1	0	1	0.5%
合 計	生 活	5	3	8	6.0%
	キャリア・コミュニケーション	3	1	4	7.8%
	全 体	8	4	12	6.5%
	退学・除籍率	9.6%	3.9%	6.5%	

⑦ 課外活動支援

さらなる課外活動の活性化に向け、本年度も2月にリーダーズキャンプを実施し、各クラブ・サークルのリーダーの養成を図った。

(2) 就職・進路支援体制

近年の就職希望率と就職率の推移は、[表4-ニ]に示した通りである。特に、就職希望率については、学生の就業意欲の向上をめざした指導を心がけており、目標値の70%を達成した。

また、就職率についても本年度は大きく回復し、8年ぶりに90%台を記録した。最大要因は人手不足による売手市場といえるが、生活学科学生の例年にはない就職活動意欲の表れであると分析している。

引き続き、低年次からのキャリア支援のための各種セミナーの充実化や基礎学力と社会人基礎力・コミュニケーション能力の向上に取り組んでいく。

[表4-ニ: 就職・進路状況]

区分	年度											
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
卒業生数	244	248	249	217	238	222	175	143	121	89	92	
就職希望者数	125	146	162	144	161	144	120	105	87	68	68	
就職者数	115	138	152	120	117	112	90	79	65	57	61	
就職希望率(%)	50	59	65	66	68	65	69	73	72	76	74	
就職率(%)	92	95	94	83	73	78	75	76	75	84	90	

※その他: 大学編入学者(5人)、専門学校進学者(2人)

5. 研究に関する事業

(1) 外部研究資金の活用

外部研究資金の活用をめざし、科学研究費補助金申請に取組み、申請件数は2件で、新規採択には至らず継続の研究分担が1件のみという結果であった。その他と合わせ[表5-イ]の補助金交付を受けた。

[表5-イ: 外部研究資金採択結果]

内容	直接経費	間接経費
科学研究助成基金助成金(挑戦的萌芽研究: 分担) 「人間の暗黙知とカオス混合理論を組み合わせた革新的攪拌装置の開発」(神戸大学工学研究科: 大村直人教授)	¥150,000	¥45,000

(2) 研究成果の外部発信

本年度発行の『紀要』への論文投稿は8人・4件であった。また、前年度の研究業績は[表5-ロ]の通りである。

[表5-ロ: 平成26年度研究業績総括表]

業績区分	教員数	本数・編数等
著書・論文	1	2
その他の著作	3	4
学会発表	2	7
作品等	2	2
講演会等社会的活動	2	11
受賞	0	0

6. 社会的活動、国際交流に関する事業

(1) 社会的活動に関する事業

① 生涯学習ニーズへの対応

● **社会人学生の受入れ**

社会人学生を積極的に受け入れるべく、「書類選考」「面接」を中心とする選考方法による社会人入試を実施した。入学者数は平成 18 年度が 7 人、平成 19 年度は 2 人、平成 20 年度が 3 人、平成 21 年度 5 人、平成 22 年度 2 人、平成 23 年度と 24 年度は入学者なし、平成 25 年度、26 年度が 2 人ずつで、平成 27 年度は 1 人の入学者であったが、平成 28 年度はなかった。

● **科目等履修生の受入れ**

本年度は前期・後期合わせて 15 人(継続者 11 人)の科目等履修生を受け入れた(前年度は 14 人)。

● **公開講座の開設・運営**

地域社会連携センターによる公開講座は、〔表 6-イ〕の通りであった。

〔表 6-イ:公開講座収支状況等推移〕

区 分	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
開講講座数	42	48	38	36	36	30	29
受講者数	926	792	562	515	462	448	425
収 入 (円)	7,835,500	7,949,000	7,307,000	4,352,000	3,792,100	3,379,200	2,967,400
支 出 (円)	6,445,682	5,800,920	5,569,957	4,611,503	2,986,251	2,845,843	2,360,131
差 額 (円)	1,389,818	2,148,080	1,737,043	▲259,503	805,849	533,357	607,269

● **施設開放**

本学の教育・研究活動に支障のない範囲で、施設の貸出を実施している。使用料収入の推移は〔表 6-ロ〕の通りである。

〔表 6-ロ:施設貸出に伴う使用料収入推移〕

年 度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
のべ貸出日数	54	47	36	36	26	20	29
のべ使用団体数	17	14	13	15	17	10	11
使用料収入(円)	12,380,761	11,698,424	9,919,032	9,674,631	5,083,536	4,842,850	7,055,100

● **地域連携・貢献事業への参加**

その他〔表 6-ハ〕に示した地域のイベント等に参加協力した。

〔表 6-ハ:地域連携・貢献事業一覧〕

月/日(曜)	連携イベント事業内容	協力団体等
4/11(土)	神戸市水の科学博物館イベントにて「はるかぜコンサート 2015」開催	生活学科 Kobe-Yamate CAST
4/19(日)	「つつじ遊山」(相楽園主催)にてお点前披露	茶道部
	生田文化会館「いくた寄席」運営スタッフボランティア参加	学生有志
4/25(土)・ 26(日)	「インフィオラータこうべ 2015 三宮東」(神戸市主催)にて花絵制作	キャリア・コミュニケーション学科
5/14(木)	Music Tour 2015(吹奏楽部学内コンサート)開催	吹奏楽部
6/13(土)～ 21(日)	「第 9 回夏至祭」(相楽園主催)にて美術作品展開催	生活学科 Kobe-Yamate CAST
6/21(日)	「第 9 回夏至祭」(相楽園主催)にてコンサート	
6/20(土)	「第 31 回クラシックスクエアー作曲家 Memorial Year I -」開催 (NHK神戸放送局主催、本学協賛)	松井名誉教授・表現芸術 学科卒業生
7/18(土)	神戸市水の科学博物館共催イベントにて「サマーライブ 2015」開催(JR 不通により中止)	生活学科 Kobe-Yamate CAST
7/19(日)	生田文化会館「いくた寄席」運営スタッフボランティア参加	学生有志
7/25(土)	「サマーフェスタ 2015」開催 器楽アンサンブル、ヴォーカルアンサンブル、ダンスパフォーマンス	生活学科 キャリア・コミュニケーション学科 在学生・卒業生
8/2(日)	ハーバーランドスペースシアター夏祭りにてダンスパフォーマンス披露	ダンス部
8/16(日)	「第 6 回すわやま盆踊り」にて演奏	吹奏楽部

9/5(土)	ウェディングプロジェクト「Bridal Shower 2015」開催	キャリア・コミュニケーション学科
10/10(土)	「第 32 回クラシックスクエアー作曲家 Memorial Year II -」開催 (NHK神戸放送局主催、本学協賛)	松井名誉教授・表現芸術 学科卒業生
10/17(土)	神戸市中央区連携協力事業「秋華祭」(コムスタこうべ)にてダンスパフォーマンス披露	ダンス部
10/25(日)	「第 9 回多文化交流フェスティバル」(中央区との連携行事)参加	キャリア・コミュニケーション学科
10/28(水)	外国客船「セレブリティ・ミレニアム」入港歓迎演奏	吹奏楽部
10/30(金)	社会人野球日本選手権大会応援演奏	
10/31(土)	相楽園連携協力事業「神戸菊花展」にてお点前披露	茶道部
11/7(土)・ 8(日)	「パンプロジェクト～港や麵麩サンドウィッチカフェ」開催	キャリア・コミュニケーション学科 土井ゼミ等
11/14(土)	神戸市水の科学博物館イベントにて「オータムコンサート 2015」開催	生活学科 Kobe-Yamate CAST
11/15(日)	生田文化会館「いくた寄席」運営スタッフボランティア参加	学生有志
12/4(金)～ 12/13(日)	KOBE ルミナリエ募金ボランティア活動	学生有志 44 人 (のべ 103 人)
11/22(日)～ 12/9(水)	阪神電鉄三宮駅「クリスマス装飾」制作協力	キャリア・コミュニケーション学科
12/23(水)	阪神電鉄「クリスマス・イブイベント」協力	
1/21(木)	Music Tour 2016(吹奏楽部学内コンサート)開催	吹奏楽部
1/23(土)	「2015 年度アートフェスタ&音楽・舞台コース卒業公演」開催	生活学科
2/6(土)	「第 33 回クラシックスクエアー作曲家 Memorial Year II -」開催 (NHK神戸放送局主催、本学協賛)	松井名誉教授・表現芸術 学科卒業生
3/5(土)	外国客船「セブンシーズ・ボイジャー」入港歓迎演奏	吹奏楽部

● **地域清掃活動**

昨年度に引き続き、本年度も毎月 1 回、学生・教職員有志により地域清掃活動を実施した。

(2) **国際交流に関する事業**

① **海外語学研修**

本年度は、希望者がなく中止した。

② **外国人留学生の受け入れ**

「4. 学生の支援に関する事業」参照。

③ **海外生活文化実習(生活学科)**

生活学科の「海外生活文化研修」は、次の通りの結果であった。

- 研修先: イタリア(ヴェネツィア、フィレンツェ、ローマ等)
- 期 間: 平成 28 年 2 月 14 日～2 月 22 日
- 参加者: 22 人(生活学科学生 2 人、キャリア・コミュニケーション学科学生 11 人、併設大学学生 9 人)

④ **カナダ留学制度(キャリア・コミュニケーション学科)**

本年度は以下により実施した。

- 留学先: ブリティッシュコロンビア州立バンクーバーアイランド大学(カナダ)
- 期 間: 4 か月
- 参加者: 3 人

7. **管理運営に関する事業**

(1) **学科運営体制**

- ① 学校教育法及び同法施行規則の改正に対応した学則及び改正学内諸規則の施行に伴い、ガバナンスの確立に努めた。

- ② 平成 28 年度設置の「現代生活学科」の円滑なスタートに向け、生活学科とキャリア・コミュニケーション学科間の連携を強化した。

(2) 事務組織体制

各部署の業務見直しを進めるとともに、「神戸山手学園経営改善計画」の履行に向け、次年度よりの「キャリアセンター」の設置や学内 LAN、サーバーの管理、ホームページの管理運営業務の図書館から法人事務局総務・企画課への移管を決定し準備を進めた。

8. 財務に関する事業

(1) 学生納付金収入確保

この数年来、本学の財務体質を改善すべく人件費を含め、教育研究経費と管理経費の削減に努めてきた。しかしながら、支出超過の歯止めはかからず、悪化の一途をたどっている。この最大の要因である入学定員確保による学生納付金収入の増加という命題を教職員一丸となって取り組んできたが、克服できなかった。

(2) 補助金等外部資金の確保

① 私立大学等経常費補助金について

一般補助を含め、私立大学等経常費補助金は本学園収入を支える一つの柱である。それだけに、学生納付金収入とともにその確保が本学園の収支改善の大きな命題となっている。しかし、収容定員充足率の低下に伴い、交付額は伸び悩んでいる。〔表 8-イ〕参照

今後の課題としては、何よりも入学定員を着実に確保し続ける以外に収支改善の打開策はない。

〔表 8-イ:私立大学等経常経費補助金交付額推移表〕

(千円)

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
一般補助	59,920	62,810	69,339	64,084	75,084	55,227	35,632	42,135	36,990
特別補助	19,254	18,856	31,632	28,743	1,006	3,932	2,504	3,308	3,613
合計	79,174	81,666	100,971	92,827	76,090	59,159	38,136	45,443	40,603

② 科学研究費補助金等収入について

「5. 研究に関する事業」参照。(間接経費が実質的には収入となる。)

(3) その他の収入確保

公開講座や施設貸出による収入状況については、「6. 社会的活動、国際交流に関する事業」参照。

(4) 支出の削減

支出予算の策定段階より、集中と選択による編成方針を徹底しつつ教育研究経費と管理経費の見直しを進めた。

9. 自己点検・評価に関する事業

(1) 機関別認証評価(第三者評価)への対応

昨年度に引き続き二期目の第三者評価で問われる教育の質保証への取り組み、学習成果の評価方法について検討した。本年度も、昨年度に引き続き学科専門科目に加えて共通教育科目についても学習成果報告書を提出してもらい、短大独自の定量的評価システム構築の基礎資料とした。

(2) FD 活動

本年度は、全学的に「学習成果の定量的評価方法」に関わる情報の共有を図りつつ、自己点検・評価推進委員会を中心に学科会議等を通じて議論を深めた。

(3) SD 活動

本学が加盟する日本私立短期大学協会や大学コンソーシアムひょうご神戸などを主体とする研修会に積極的に参加し、職員の資質向上を図った。

さらに、本年度は、本学の広報の見直しを進めるべく、学生獲得プロジェクトチーム会議において実施が決定された(株)電通西日本の企画による「神戸山手大学・神戸山手短期大学の広報プランの策定に向けたファシリテーションプログラム」を、以下により関係教職員で実施した。

①第1回目:平成27年8月19日(水)

②第2回目:平成27年9月15日(火)

また、マイナンバー制度の運用開始(平成28年1月1日)に先立ち、SD・FD研修の一環として、以下により「マイナンバー制度 管理者・事務担当者説明会」を実施した。

開催日:平成27年8月4日(火)

以上

■神戸山手女子中学・高等学校

【総括】

1. 建学の精神と教育方針

本校は、平成26年度の創立90周年に引き続き、平成27年度は音楽科創設50周年の節目の年を迎えた。「自学自習・情操陶冶」の建学の精神を踏まえ、生徒一人ひとりに「確かな学力」を身につけさせ、「挨拶・感謝・感動・思いやり」を大切にする「人柄の基礎」を育む教育にも重点をおき、平成27年度も引き続き、学習面でも情操面でもバランスのとれた健全な中学生、高校生の育成を目指して、100周年に向けての第一歩を踏み出した。

2. 平成27年度の主な教育経営方針

本校では、平成26年10月に「神戸山手女子中学高校教育経営改革推進会議」を設置し、25年度の「中学高校教育経営検討会議」の報告書に指摘のあった12項目についての議論を引き継ぎ、「学納金の見直し」「広報専門員の増員」「強化クラブの指定」「選抜方式の見直し」など、新たな経営指針や事業実施内容及び、それらの具体的な対応策やロードマップについて取りまとめたところである。

平成27年度は、この「改革推進会議」の結果を踏まえて、①広報専門員の1名増員、②陸上競技部と吹奏楽部への特待制度の導入検討、③G方式(グローバル方式)入試の導入検討などを行ってきたところであるが、一方で、6月に新たに「神戸山手女子中学高校将来像構想会議」を設置して、創立100周年に向けた本校の将来像を語り合うとともに、「共学化」の問題や法人・友松会・育友会との協力体制づくりなどについて話し合い、グローバル教育の推進や、部活動の強化、生徒募集や広報活動のあり方について共通理解を深めた。

1. 教育内容に関する事業

(1)教科指導とカリキュラム

ア、生徒の学習内容に関する意欲関心を高め、満足度の高い授業を実現するため、生徒のできる・わかるという感動を大切に、提出物や考査等により、個々の生徒の理解度を把握することを重視した。

イ、「基本的学習習慣」の確立を目指すため、生徒の実態に応じた生活習慣の点検、学習指導の在り方、家庭学習指導を工夫した。また、中学高校進学コース「自学自習タイム」の時間を有効活用した。

ウ、高校音楽科において、幅広いニーズに応える音楽総合専攻を一層充実させた。

○音楽総合専攻:26年度3/33, 27年度4/19

エ、英語教育において、グローバル教育推進事業を立ち上げた。

オ、第3学期より、隔週土曜日の特進講習の50分授業を実施した。

(2)生活指導

ア、人柄の基礎としての「挨拶、感謝、感動、思いやり」の指導を重視した。

イ、教員・生徒共に、通学路や公共交通機関内での態度・マナーの向上に努めた。

ウ、国の「いじめ防止等のための基本的な方針」に基づき、新しく策定した「学校いじめ防止基本方針」にそった指導をすすめ、いじめの防止ならびに早期発見、家庭との連携など適切な対応に努めた。

エ、「いじめアンケート」を実施して、生徒たちの状況把握につとめ、問題となる事柄には迅速に対応した。また、校内巡回を多く行い、いじめの早期発見に努めた。

オ、スマートフォンなどでのSNSに関わる問題事例や薬物乱用、防犯講習、非行防止などについて、生徒だけに限らず保護者へも啓蒙活動を実施した。

カ、「シャキッとキャンペーン」「早寝早起き朝ごはんキャンペーン」などを通して、規則正しい生活習慣の確立に努めた。

各種キャンペーン	平成27年度 実施期間
「シャキッとキャンペーン」	各学期1回:6/1(月)~6/5(金)、10/5(月)~10/10(土)、2/1(月)~2/5(金)

「早寝早起き朝ごはん キャンペーン」	5/7(木)～5/13(水)
「ノーチャイムデー」	「シャキッとキャンペーン」の火曜日：6/2、10/6、2/3

キ、服育講演会などは引き続き実施して、身だしなみについて指導した。

ク、保護者との連携を密にし、協力して生徒の指導に当たるため、保護者会での学級懇談、保護者面談のほか、必要に応じて家庭訪問を実施した。

(3)進路指導

ア、各種検定の実施とその結果

各種検定	実施時期・回数	受検者数・合格者数、成果など
英語検定	6月、10月、1月	受検161、合格：準1級1、2級9、準2級19、3級26、 4級20、5級14、
数学検定	6月、11月、2月	受検49、合格：準2級2、3級5、4級6、5級7、
漢字検定	6月11月、2月	受検198、合格：2級2、準2級8、3級15、4級13、
時事検定	6月、8月	受検26、合格：2級1、準2級9、3級10
日本語ワープロ検定	7月、12月	受検99、合格：1級1、準1級6、2級10、準2級20、 3級31、4級11、
情報処理検定	7月、12月	受検8、合格：1級4、2級2、3級2
国語力検定	9月	受検135、合格：3級5、4級18、5級112

イ、自習室の利用状況

利用人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
平成26年度	228	681	228	36	閉鎖	320	652	330	338	210	250
平成27年度	216	544	598	114	80	303	546	305	254	226	94※

※平成28年2月15日現在の数値

ウ、アドバンスト講習(学外講師による講習)、スタンダード講習(本校教員による講習)による学力向上策を継続した。受講者数を伸ばした。

アドバンスト講習名	実施曜日	受講者数※	
		27年度	26年度
高3世界史	月曜日	14.4人↑	10.3人
高3英語	木曜日	26.0人↑	21.0人
高3国語	金曜日	21.8人↑	13.3人
高2英語	月曜日	12.8人	16.3人
高2国語	木曜日	21.3人↑	11.7人

※受講人数は2学期末までの平均人数、↑は増

エ、「勉強合宿」の充実

○中2全員を対象に7月に実施。学習習慣の確立のみならず、キャリア教育の一環としての講演を聴く機会を設けた。高1は特進・選抜コース全員+希望者を対象に8月に実施。英数国中心に学習習慣の確立を目的に取り組んだ。

オ、「大学訪問」、「卒業生を囲む会」などの実施

○進路実績向上のために、進路指導部が主体的に進路指導行事を計画し、学年と協力し実施した。

中2：サマーインテンシブ、キャリア講演会
中3：キャリア講演会、
高1：勉強合宿、夢ナビライブ、大学見学ツアー（関学、甲南）
高2：適性検査、夢ナビライブ、卒業生を囲む会、分野別説明会、大学見学ツアー（甲南）
高3：卒業生を囲む会

カ、進路実績の向上

○平成28年度入試

4年生大学進学が70%を越え、国公立大学8名、関関同立26名、産近甲龍43名と合格者数を伸ばした。

(4)キャリア教育など特色ある教育

ア、「Keepプログラム」を実施する。

○キープ手帳を用いて、日々の計画、月間計画、将来の計画など、自分で自分のスケジュールを管理する習慣をつけさせるよう指導した。

イ、「社会探検プログラム」を継続実施した。

社会探検プログラム名	実施予定日	実施内容
トゥワイスプラン	高2：1～2 学期	企業インターン体験
食育	3月	苺狩り（中2）、かまぼこ工場見学（中3）、講演会（高1～3）、「食育だより」発行（生徒・保護者向け）
博物館見学	随時	神戸市立博物館特別展を鑑賞

ウ、人間、平和、性、マナーなど、道徳教育の内容を含む本校中学独自の「ゆたかプログラム」を実施した。

ゆたかプログラム名	実施日	実施内容
博物館・美術館訪問	随時（年間複数回）	神戸市立博物館見学特別展を鑑賞、県立美術館特別展鑑賞
芸術鑑賞	6月 11月	演劇鑑賞（わくわくピッコロステージ）、全校芸術鑑賞会（英語落語や古典落語鑑賞）
平和学習	研修旅行事前学習など	ピースおおさか見学（中2）、「夏服の少女たち」（中2）、「ひめゆりの塔」（中3）「対馬丸」（中3）鑑賞、沖縄戦について
異文化体験		韓国文化体験（中2：10月、中3：7月）、海外研修旅行の実施（高1：3月：シンガポール・ニュージーランド、中3：5月：カナダ、音楽科：7月：ヨーロッパ）
伝統文化体験		茶道・華道体験（中1・2・3：各1回）
ものづくり体験	3月	ものづくり体験館訪問（中1）
人権学習	年間各1回	中1：HR「良いところ探し」、車いす体験、

		中2：アイマスク体験・点字体験、視覚障害講演、 中3：聴覚障害者講演、
--	--	--

(5)学校行事

ア、「文化祭・バザー」「体育大会」等の学校行事については、平素の学習の成果を生かし、生徒全員が役割を分担し、積極的に協力し合って取り組むよう指導した。

イ、中学3年次、高校1年次の研修旅行、音楽科研修旅行(隔年実施、平成28年度は実施しない)の実施。

	実施時期	行き先など
中3 研修旅行	5月	沖縄平和学習、またはカナダ語学研修旅行
高1 研修旅行	3月	北海道スキー研修旅行、シンガポール海外体験旅行、またはニュージーランド語学研修旅行
音楽科研修旅行	7月	ヨーロッパ研修旅行

ウ、音楽に関する行事

○音楽科生徒の各種演奏会・発表会をはじめ、山手音楽祭や合唱コンクール、選抜高校野球大会での大会歌合唱等、音楽に関する行事の実施。

○音楽科創設50周年記念事業

①さとがねりコンサート(音楽科OG+在校生)、教員コンサート、50周年記念演奏会のコンサートシリーズの実施。

②音楽科生徒による「ありがとうコンサート」の実施

	実施時期	行事内容
山手音楽祭	6月	音楽系クラブと音楽科のコラボ演奏会
合唱コンクール	11月	中学生による、各クラス・学年対抗の合唱コンクール
定期演奏会	10月	音楽科生徒全員出演による演奏会
サマーコンサート	8月	音楽科の夏季合宿の成果発表
JAMコンサート	3月	音楽科2年生によるアートマネジメント学習の集大成
卒業演奏会	3月	音楽科3年生(選抜)による演奏会
甲子園コーラス	3月	春の選抜高校野球大会開会式での、高校1・2年生全員による大会歌の合唱

(6)生徒会活動、部活動

ア、生徒会組織の一員として、生徒会活動を通してよりよい学校づくりに協力し、集団の中での役割を果たすことのできる自主的・実践的態度を養うよう指導した。

イ、スポーツや文化活動に親しませ、責任感、連帯感、学習意欲の向上に繋がるクラブ活動の充実を図った。また、魅力的なクラブの強化という観点から、特定のクラブに重点を置いた指導を検討・試行した。

○平成28年度より、陸上競技部、吹奏楽部を強化クラブに指定することを検討した。

○平成28年度より、部活動終了時間(下校時間)を18:00とし、毎週月曜日を17:30とすることを検討した。

2. 教育の実施体制に関する事業

(1)学科・コース・学年運営について

ア、中学校の2コース、高校2年生からの3コース制を明確にし、国公立大学や難関私立大学、短期大学など、生徒の希望する進路や目標にあわせてカリキュラムを設定できるようにした。

イ、中学校において特進・進学両コース間の入れ替えを促し、緊張感や競争心を持たせるよう指導を行った。また、進学コースのモチベーションを高める授業の工夫を行った。

ウ、理系への進路選択の幅を広げる科目設定、教科指導を工夫した。

エ、音楽科においては、音楽コンクールや、校外での演奏活動に積極的に参加した。また中央区・神戸市と連携し、神戸の音楽文化の発信源となるよう活動した。

(2) 教職員研修の実施

ア、専任・常勤教員だけでなく非常勤職員についても、教育職員としての研修を効果的に実施した。

イ、体罰防止、個人情報の扱い、ハラスメント問題、特別支援教育などについての教職員研修を実施し、教育者としての意識向上とモラルアップを図った。

研修名	H 2 7 実施日	研修内容
新任者研修	校内：4月1日、5月20日、7月22日、 校外：6月19日、8月17・18日	新任者心得、授業研究、 生徒指導研究
救急救命研修	校内：8月21日	AED
人権研修	校内：6月15日	ハラスメント

ウ、「いじめ防止対策委員会」を置き、職員会議、学年会、生徒部などとの連携をより深めた。

エ、校内「進路指導教員研修」を定期的に行うなど、進路指導実績・大学合格実績の向上に向けて中高全体で意識的に取り組んだ。

(3) 進路指導について

ア、大学合格者数の推移

年度	2 8	2 7	2 6	2 5	2 4	2 3	2 2
①国公立大	5	3	4	5	3	2	0
②関関同立	26	17	13	13	18	11	14
③産近甲龍	43	25	30	34	21	14	14
④音楽科国公立	3	6	1	1	3	0	2

※平成28年3月24日現在

イ、併設大学以外の著名な難関私立大学(甲南大学、関西学院大学)とも連携を強化し、教育提携などを通じて、本校生の卒業後の進路を充実させる取組を行った。

甲南大学・神戸山手女子高等学校接続プログラム	
1 学年	6月：岡本キャンパス見学、模擬講義 7月：ポートアイランドキャンパス見学、模擬講義 8月：オープンキャンパス参加 10月；連携講義
2 学年	6月；本校卒業生との交流会 7月：西宮キャンパス見学、模擬講義 8月：オープンキャンパス参加 10月：文理別講義
3 学年	6月：本校卒業生との交流会

ウ、指定校推薦入試においては、難関大学など重点大学の推薦枠を満たすよう指導した。

エ、進路実績向上のために、進路指導部が主体的に進路指導行事を計画し、学年と協力し実施し、26年度に実施した以下の進路指導行事は継続した。

オ、保護者の進路意識を高めるために、保護者対象の講演会を行った。

中2：サマーインテンシブ、キャリア講演会
中3：キャリア講演会、
高1：勉強合宿、夢ナビライブ、大学見学ツアー（関学、甲南）
高2：適性検査、夢ナビライブ、卒業生を囲む会、分野別説明会、大学見学ツアー（甲南）
高3：卒業生を囲む会

カ、高大連携協定の締結

- 本校音楽科と同志社女子大学学芸学部音楽学科との連携協定
- 本校普通科と甲南大学法学部との連携協定

3、生徒募集・広報活動に関する事業

(1) 中高入試・生徒募集

- ア、平成26年度以降、高校募集より総合進学コースを新設、併せて3コース募集とし、総合進学コースでは中学で内申に重きを置いた面接作文方式を復活させた。また、音楽科には音楽総合という専攻を新設した。さらに、普通科総合進学コースの面接・作文方式を継続した。
- イ、高校受験に関しては公立高校の学区再編の影響に臨機応変に対応し、特に公立中学校の進路指導の流れを本校へ向けるため、公立中学校の生徒・教員に向けた関わりを強化した。
- ウ、現在、募集数においては高校募集の比重が大きく(中学90名、高校170名)、今後は広報活動の重点を高校募集に移していく必要がある。そのため、退職中学校校長の広報専門員としての任用を2名とするなどの人的措置を含め、公立中学校への関わりを深める広報体制を整えた。
- エ、平成25年度に実施した中学募集プレテストは、本校への関心を持たせ、来校を促すという一定の成果を挙げ、入学者数を回復させることに繋がったと考えられる。よって、引き続き中学のプレテストを実施した。また、中学入試では自己推薦入試(Y方式)を継続するとともに、G方式を導入した。

(2) 広報イベント・説明会

- ア、中学受験層、高校受験層どちらに対しても、「わくわくイングリッシュ」、「わくわく体験スクール」など偏差値だけでなく学校選びに応える幅広い積極的な生徒募集広報活動を企画・展開した。またスポーツクリニックや楽器クリニックも広報活動として継続した。

クリニック	H27実施日	H26実施日	講師	参加者数
運動部クリニック		7月28日	白石 宏	200名+本校生
バレーボールクリニック	11月29日	11月29日	近藤ひふみ	100名+本校生
ダンスクリニック		3月7日	佐田義人	10名+本校生
陸上競技クリニック	10月31日		山崎一彦	250名+本校生

(3) パンフレット等広報媒体

- ア、オープンスクールなどの申し込みなどもホームページからのものが増えており、魅力的なホームページの運用に当たった。
- イ、入試広報ツール制作については、平成26年10月のプロポーザル競技結果を踏まえ、より効果的、魅力的なものに変更していくよう努めた。

4. 生徒支援に関する事業

(1) 不登校への対応

- ア、小学校・中学校時代に不登校傾向にあって入学してくる生徒や、思春期の悩みを持つ生徒に応える

ためにスクールカウンセラー制度を継続し、教職員がカウンセリングマインドをもって生徒と接することが必要であった。

(2) 特別支援教育

ア、障がいの有無やその他の個々の違いを認識し、それぞれが生き生きと活躍できる共生社会づくりのため、特別支援教育を推進した。

(3) 奨学金制度

ア、育友会・友松会との連携のもと、奨学金(特待生)制度の効果的運営に努めた。
イ、ファミリー特待制度の拡充・広報に努めた。

(4) 子供の安全対策

ア、子ども安全連絡網(緊急連絡網)に替わって、平成27年度より阪神安心サービス「登下校ミマモルメ」による一斉メール配信を利用している。
イ、登下校の安全対策と地域への貢献のため、登下校指導や青色防犯パトロールを継続実施した。

5. 社会的活動、国際交流に関する事業

(1) 社会的活動

ア、クラブ活動やコンクールへの参加など校外での活動を推進した。多くの教科においても、積極的に進めた。
イ、地域へのボランティア活動、清掃、募金活動、音楽科の校外での演奏活動などのほかに、個人の活動に対する顕彰を行った。

(2) 国際交流

ア、姉妹校や語学研修提携校などへの短期・長期留学の充実をはかった。
イ、ロータリークラブ等の交換留学に加え、今年度、神戸市こども家庭局主催「韓国・大邱市 青少年親善協力交流事業」「韓国・仁川市 青少年姉妹都市交流事業」に4名が参加した。
ウ、中学・高校それぞれの海外研修旅行の充実をはかる。中学については、29年度以降の研修先の見直しを行った。
エ、本校に在籍する交換留学生にも、国際交流プログラム等を通じて積極的に本校の生徒たちに関わらせ、グローバルな人材育成を進めた。
オ、ヤングアメリカンズのアウトリーチ事業(ジャパンツアー)に協力し、本校生徒に参加を促した。
カ、TFT(テーブル・フォー・ツー)活動の継続実施

○平成27年度実績

in bound	国籍	期間	備考
ディーパ	マレーシア	平成27年4月～28年1月	
ムーク	タイ	平成27年5月	

out bound	留学先	期間	
長谷川侑奈	ブラジル	平成27年2月～4月	高3
桜木萌乃	タイ	平成27年3月～4月	高3
インターアクト部	タイ	平成27年8月	
柳原怜名	ニュージーランド	平成27年1月～8月	高2

6. 管理運営に関する事業

(1) 管理運営組織

ア、校務運営組織を次年度に向けて新しく見直した。
イ、諸会議の運営においては、事前に議題や資料提示を行い、効率的に進めるよう努めた。

- ウ、成績処理を含む諸データの入力や、諸文書の内容についての点検確認をより慎重に行うよう努めた。
- エ、生徒情報管理・成績管理・入試広報データ管理・出張及び諸手当事務処理などの現行の管理システムを見直し、効率良い学校運営を目指した。
- オ、防災・健康・情報管理面での安全管理の徹底を図った。

(2) 建物・設備・備品の整備・改善

- ア、中央館耐震補強工事他防水工事等に引き続き、北館耐震補強工事を計画した。

(3) 就学支援金制度等の見直し

- ア、公立高校授業料無償化制度に所得制限を設けることにより、私立高校の生徒に対する就学支援金や授業料軽減補助の見直しが生じる。そのための業務量増加に対処した。

7. 財務に関する事業

- ア、消費税が5%から8%に増加しているため、さらなる経費削減に努めた。
- イ、現在の古紙回収収益事業を継続。
- ウ、コピー枚数の削減に努めた。
- エ、省エネを意識しながら、光熱水費の抑制に努めた。
- オ、少額の場合であっても、商品購入の場合出来るだけ相見積もりを行う。(10万円以上)

8. 自己点検・評価に関する事業

(1) 学校自己評価

- ア、教育活動とその他の学校運営において、具体的な目標を設定し、取り組みと達成状況について「自己評価」を行い、「学校評価」として公表することによって、保護者、地域住民から信頼される学校づくりを進めた。

(2) 自己点検評価

- ア、「自己点検推進グループ」による「自己点検評価」によって、各教員が学校の教育目標に沿った教育活動ができているかどうか、自己の教育力の向上を図れているか、その結果、学校という集団がどのように変化したのかを検証し、教育活動に充実に努めた。

(3) 授業満足度アンケート

- ア、「授業満足度アンケート」は、各教科の課題解決と教員の指導力の向上に寄与するためのものであり、各自のアンケート結果・意思表示シートなどは校内の教員に公開している。平成 26 年度にアンケートの内容を含めた検討を行い、教員は授業の改善点を明確にした研究授業を実施したところである。平成 27 年度も引き続き、授業の改善点を明確にした研究授業の実施に努めた。

IV. 財務の概要

1. 決算の概要

平成 27 年度決算は、当年度収支差額で 3 億 65 百万円の支出超過となったが、前年度繰越収支差額が 26 億 82 百万円あり、基本金取崩額が 4 百万円となったため、翌年度繰越収支差額は 30 億 43 百万円となった。なお、「貸借対照表」の「負債」は、退職給与引当金等で長期及び短期の借り入れは行っていない。

事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、事業活動収入と事業活動支出の内容と均衡を明らかにしようとするものである。

予算対比で見ると、

事業活動収入計(予算 17 億 43 百万円に対して決算 17 億 24 百万円)は 19 百万円の減収となった。

一方、事業活動支出計(予算 20 億 88 百万円に対して決算 20 億 42 百万円)では、経費節減等で、46 百万円の支出減となった。

その結果、基本金組入前当年度収支差額は 3 億 18 百万円の支出超過となった。基本金組入額合計は 47 百万円であり、当年度収支差額は 31 百万円改善し、3 億 65 百万円の支出超過となった。

〔事業活動収支計算書〕

(単位:百万円)

		勘定科目	予算	決算	差異
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	1,223	1,219	-4
		手数料	11	12	1
		寄付金	4	4	0
		経常費等補助金	406	406	0
		付随事業収入	6	7	1
		雑収入	73	56	-17
		教育活動収入計	1,723	1,704	-19
	支出の部	人件費	1,344	1,301	-43
		教育研究経費	507	515	8
		管理経費	192	190	-2
徴収不能額等		0	0	0	
	教育活動支出計	2,043	2,006	-37	
	教育活動収支差額	-320	-302	18	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	4	4	0
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	4	4	0
	支出の部	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額	4	4	0	
	経常収支差額	-316	-298	18	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	16	16	0
		特別収入計	16	16	0
	支出の部	資産処分差額	1	1	0
		その他の特別支出	34	35	1
		特別支出計	35	36	1
	特別収支差額	-19	-20	-1	
	〔予備費〕	10		-10	
	基本金組入前当年度収支差額	-345	-318	27	
	基本金組入額合計	-51	-47	4	
	当年度収支差額	-396	-365	31	
	前年度繰越収支差額	-2,682	-2,682	0	
	基本金取崩額	4	4	0	
	翌年度繰越収支差額	-3,074	-3,043	31	

資金収支計算書

資金収支計算書は、学園の1年間の諸活動に伴う資金の収入と資金の支出を明らかにし、支払資金の顛末を表わすものである。

予算対比で見ると、

収入の部、支出の部とも合計(予算48億38百万円に対して決算49億12百万円)は74百万円の増加となった。

この結果、翌年度繰越支払資金は9億71百万円となり、38百万円増加した。これは、当年度収入合計で74百万円増加し、当年度支出合計で36百万円増加したことによる。

2. 貸借対照表の概要

貸借対照表

貸借対照表は、当該年度末の財政状態を表わしている。

教育研究環境の維持向上を目指し施設設備の充実を図ったため、基本金が増加した。

〔貸借対照表〕

(単位：百万円)

資産の部	27決算	26決算	増減
固定資産	6,881	7,175	-294
有形固定資産	6,123	6,197	-74
特定資産	714	934	-220
その他の固定資産	44	44	0
流動資産	1,120	1,096	24
資産の部合計	8,001	8,271	-270
負債の部	27決算	26決算	増減
固定負債	506	487	19
流動負債	313	284	29
負債の部合計	819	771	48
純資産の部	27決算	26決算	増減
基本金	10,225	10,182	43
繰越収支差額	-3,043	-2,682	-361
純資産の部合計	7,182	7,500	-318
負債の部及び純資産の部合計	8,001	8,271	-270

〔資金収支計算書〕

(単位：百万円)

収入の部	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	1,223	1,219	-4
手数料収入	11	12	1
寄付金収入	4	4	0
補助金収入	406	406	0
資産売却収入	214	214	0
付随事業・収益事業収入	6	7	1
受取利息・配当金収入	4	4	0
雑収入	74	57	-17
前受金収入	235	222	-13
その他の収入	2,219	2,309	90
資金収入調整勘定	-244	-228	16
当年度収入合計	4,152	4,226	74
前年度繰越支払資金	686	686	0
収入の部合計	4,838	4,912	74
支出の部	予算	決算	差異
人件費支出	1,355	1,313	-42
教育研究経費支出	383	390	7
管理経費支出	188	187	-1
施設関係支出	13	9	-4
設備関係支出	30	30	0
資産運用支出	1,820	1,939	119
その他の支出	104	104	0
〔予備費〕	30		-30
資金支出調整勘定	-18	-31	-13
当年度支出合計	3,905	3,941	36
翌年度繰越支払資金	933	971	38
支出の部合計	4,838	4,912	74

